

技術情報9 2023年販売に向けて

令和5年7月
宮崎県たばこ耕作組合

▼商品意識を持って、出荷前の事前確認を必ず行いましょう。👉 **事前対応を行うことで、販売がスムーズに行えます。**

※鑑定場での「出荷規格不適合包」は、処置区分により手数料が徴収されています。事前確認の徹底が必要です！

※出荷までの貯蔵管理には充分注意し、貯蔵中の吸湿変色等の品質低下がないようにしましょう。

1. 下位中葉(旧下葉)の青残り、褐変葉のピッキング …… 包内に青残り、褐変葉が目立つものについては手入れが必要！

○事前確認の際、包内に①**青残り**・②**褐変葉(下図参照)**の目立つものについては手入れ、ピッキングをする。



①**青残り**:葉肉の表、裏に青残りの強い物



②**褐変葉**

正常葉

2. グレー葉の混入確認(Ⅰ型、Ⅱ型) …… 重症葉は、確実なピッキングが必要！

○主に畑作でⅠ型(塩素)グレー、水田作でⅡ型(重金属)グレーが発生する。グレー葉は、乾葉が吸湿すると症状が進行し、重症化するので貯蔵管理に充分注意し、貯蔵中の症状の進行を防ぐ。(吸湿防止の徹底)

・症状の程度により違いはあるが、灰色から褐色の症状葉が主体となるとタイプは「S」または「廃棄」となる。

3. 総かぎ終盤の日焼け、枯れ葉の手入れ確認 …… 葉先や葉肉の褐変部分の手入れが必要！

○例年、梅雨明け以降の高温・強日射の影響で、総かぎ終盤の乾葉に枯れに伴う褐変が見受けられる。

・取りおろしピッキング時に手入れはされているが、再度確認し、出荷規格に適合するか判断する。

4. 異物・異臭・貯蔵害虫・吸湿防止対策等 …… 通常の品質管理であるが更に入念に！

【異物】

○腐れ・褐変・土砂・降灰等の付着が見受けられる物については手入れ除去する。 …… 葉先、葉元の確認。

【異臭】

○葉たばこ以外の臭い(灯油臭、合板臭等)が付着していないか確認する。 …… 気づいたら耕作組合に連絡してください。

【貯蔵害虫】

○セリコ、ガチョンによる発生予察の徹底。 …… 貯蔵害虫を確認したら速やかに耕作組合に連絡してください。

【吸湿防止】

○吸湿変色に伴う品位低下包が毎年見受けられる。 …… 除湿器を活用した吸湿変色の防止。

★ **ピッキングの程度や手入れ等不明な点については、耕作組合に連絡して下さい。⇒ 必要に応じて現物確認と指導を実施します。**

〔技術情報:8〕 2023年作 当面の管理作業について【完全収穫による収量確保】

令和5年6月
宮崎県たばこ耕作組合

◎梅雨時期を迎え、病災害の発生しやすい時期となりました。各種病災害の発生・拡大は、例年大きな減収要因となっています。引き続き以下の注意点を参考に**病災害予防対策の徹底**と**完全収穫**により「**収量・品質の確保**」に努めてください。

1. 病害対策 : 「疫病・灰色かび病・赤星病」の糸状菌病害対策の徹底 : まずは発生させない対策を! ... 「技術情報:4」参照

①耕種的防除の徹底 : **病害防除の基本的作業!**

排水対策の徹底

降雨時、降雨後の見回り!
排水溝の点検、補修!
梅雨の豪雨を想定した早め

ほ地の衛生管理の徹底

作業時の黄葉、わき芽などの
持ち出し、処分徹底!

病害拡大防止の徹底

発病ほ地 ⇒
降雨時は可能な限り入らない!
病害葉に触らない!
作業機の洗浄!

降雨後 排水溝なしで水が溜まっている(水田作)



溜まった水が早く流れ出るように、排水溝を設置する!

②計画的薬剤防除の実施 : **糸状菌病害は発生前の予防が効果的!**

効果的薬剤防除の実施

- ・農薬による効果的な予防対策を実施する。発病してからは効果が低く、**使用時期・使用量は「技術情報:4」を参照**して計画的に実施する。
- ・農薬の散布にあたっては葉の表裏にたっぷりかかるよう散布する。(AP-1使用の際は垂直散布機を使用し、速度は高速-1)
- ・農薬の使用にあたっては「**農薬使用基準**」を**しっかり確認し、遵守**する。(作業日誌への記帳)

(赤星病の初期症状)



(灰色かび病の初期症状)



●糸状菌病害は強風雨、連続降雨等により一気に発生が拡大し、**収量・品質に甚大な影響を及ぼします。**

・作業時によく観察し、発生の兆候を見逃さないように注意し、**早めの対策を実施**してください。

2. 完全収穫に向けて : **作業遅れがないよう、完全収穫に努め収量確保を図る!** ... 「技術情報:7」参照

①

横さらえは、「**広く・浅く**」

・本年作は、**中葉系がしっかり**しています。熟度を**すすめ、流すことなく収穫**しましょう!!

②

総かぎ前の**合葉拾い取り**

③

立枯病葉の**クジリ取り、
当日吊り込み**

④

総かぎ開始の**熟度見極め
(上位本葉の熟度)**

⑤

上葉区分の**徹底
(3~4枚) 品質向上を**

1. 旧下葉収穫(収穫の開始)

- ☆心止め前に全面積収穫を目標とし、完全収穫に努め収量確保を図る。
- ・旧下葉は、早く生まれており発蕾期以降の収穫で中葉の充実を図り、2回目以降の取り遅れ防止のためにも早めの収穫に努める。
- ・大柄、遅作であっても下葉は早めに収穫を行い、風通しを良くして上位葉の充実を促進させる。

2. 価格の平準化を考慮した収穫(耕作日誌P5参照)

- ①中葉の価値向上を意識した収穫の実施
 - ・「広く、浅く」の収穫で完全収穫と包内斉度の向上:横かぎ1~2枚を遵守
 - ◆目標:横かぎ収量10a当80kg以上
- ②上葉の価値向上を意識した収穫の実施
 - ・上葉区分3~4枚程度:特に総かぎ開始時期の上葉区分は注意
- ③タイプ別収穫の徹底
 - ・作柄タイプ別、病災害葉別の区分収穫徹底:特に立枯病葉の区分

3. 各着位、回期別の収穫方法と熟度兆候の見極め

| 着葉位置 | 葉分 | 収穫回期 | 収穫枚数 | 適熟葉の徴候および収穫の目安 | |
|----------------------------------|---|-------------|---|---|--|
| <p>早作タイプの標準作柄 収穫葉数:18枚程度</p> | 上葉 3~4枚程度 | 総かぎ | 10枚 | ◆心止後50日程度を目安にして開始時期を決める ・総かぎ開始の目安 …… 本葉の最上位葉の中骨の白化を確認(本葉はAタイプの熟度を担保) ・総かぎ残葉数の目安 …… 熟度の促進と若返り防止を考慮する。 畑)10枚程度 水田)11~12枚程度 ・拾い取りの実施 …… 流れそうな合葉だけを拾う(収量に大きく影響) ※若返り防止のため無理な収穫はしない(老化した葉であれば若返らない) ⇒熟度の状況により収穫を休むことも必要 | |
| | 本葉 5枚程度 | | | | |
| | 合葉 5枚程度 | | | | |
| | 横かぎ5回目 | 1~2枚 | ・熟度を担保し、葉先の枯れと中骨の白化(表面が平らとなりミゾができる)を確認して収穫 | | |
| | 横かぎ4回目 | 1~2枚 | | | |
| | 中葉 3枚程度 | 横かぎ3回目 | 1~2枚 | ・熟度を担保し、葉先の枯れと中骨の白化を確認して収穫 (樹勢の弱い小柄作は生地感のあるうちに収穫) | |
| | 残葉数 10枚を例示 | 横かぎ2回目 | 1~2枚 | ・熟度を担保し、取り遅れがないように注意しながら完全収穫 | |
| | | 旧下葉 2枚程度 | 横かぎ1回目 | 1~2枚 | ・取り遅れがないよう早めに収穫(発蕾以降は収穫可能) ・心止め前に全面積を目標 |
| | 注意 | | 「商品意識」の徹底を! ◆中葉系の貯蔵期間が長くなっています。取りおろし、貯蔵管理、特に水分管理には充分注意をしてください。 ◆販売前の確認を行い、必要な包については、手直しを行ってください。(販売見込み票の作成) | | |
| | F80の成熟について ・F80の成熟は、コーカー319と同じかやや遅い。地力のあるほ地は、遅れる可能性がある。 ・収穫においては、早取りすることなく、しっかりと成熟を進めることが重要である。 | | | | |

『広く・浅くの収穫』
で着位を揃える。
(包内斉度向上)

1. 適正な心止

栄養生長過程から順調な成熟過程へ移行するための大切な作業

① 心止の目的

・開花結実に必要な養分や水分の頂上への移行を防ぎ、葉の展開を図り、内容成分を蓄積させ、成熟を促進する。
※心止め後、上位葉が開張して樹勢が旺盛になり、その後順調な成熟過程に移行するように心止時期や心止位置を考慮して適期に作業を行う。
(ピアダル型の作柄を目指した心止の実施。)

・適正な心止が根群の発達を促し、葉肉を充実させる。(浅すぎても深すぎてもダメ)
(「根張りの良い作柄」形成のための最終調整作業)

② 心止の方法

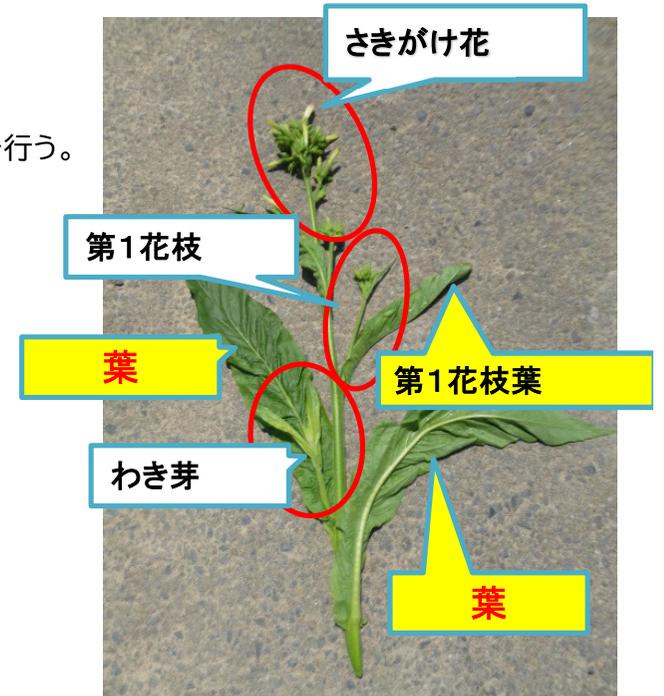
・標準作柄は、花軸が完全に伸びてから、開花1輪の頃、第1花枝葉とも3枚程度切除する。(右図参照)
(収穫葉数17~18枚確保することを目安にして切除位置を決める。)

・大柄作は開花10輪の頃、若干浅止めにする。(第1花枝葉とも1枚もしくは花軸のみの切除)
(花を咲かせ過ぎたり、わき芽を伸ばし放題にしない:晩作化の要因)

・栄養不良の作柄は、さきがけ花が白味を帯びた(節間が定まった)頃、深止めにする。

③ 作業上の注意点

・個々の畑の地力、耕土の深浅、施肥量、作柄の樹勢等を考慮して切除位置を決める。
・ほ地の60%~70%が標準状態になったとき行う。不揃いのときは、2回に分けて行い成熟を揃える。
・曇雨天が続く時は、仮止め(花蕾のみを切除)を行い、天気回復を待って止め直す。
・モザイク病や黄斑えそ病が発生しているほ地は、最初に健全株の心止を行い、その後に病害株を行う。
※地力を用意し浅止めしたほ地で、その後心配がないと判断した時は、早めに切り直すか頂上葉を除去する。



【心止位置:第1花枝葉とも3枚程度切除】

F80について

・心止の考え方、方法は、コーカー319と同じです

2. 病虫害対策の徹底 … 「技術情報:4」参照

- ① アブラムシの飛来が多くなる時期 : 黄斑えそ病、モザイク病対策として防除を心掛ける。
- ② 糸状菌病害対策も万全に! : 排水溝の管理、残さの持ち出し等耕種的防除を徹底し、さらに計画的防除に努める。

3. 接触剤散布 及び わき芽除去作業 … 「技術情報:5」参照

☆ 心止めすると、わき芽の伸長が旺盛になる : 引き続き、段取りよく適期に実施

4. 異物混入防止に心掛けましょう … 5S3定の徹底

- ① ほ地でのマルチ片回収と収穫、吊り込み時、取下ろし・荷作り時の葉元確認、包の確認
- ② 吊り込み前の乾燥室のパネル点検、清掃の実施

*作業場で徹底しましょう!!

5S…

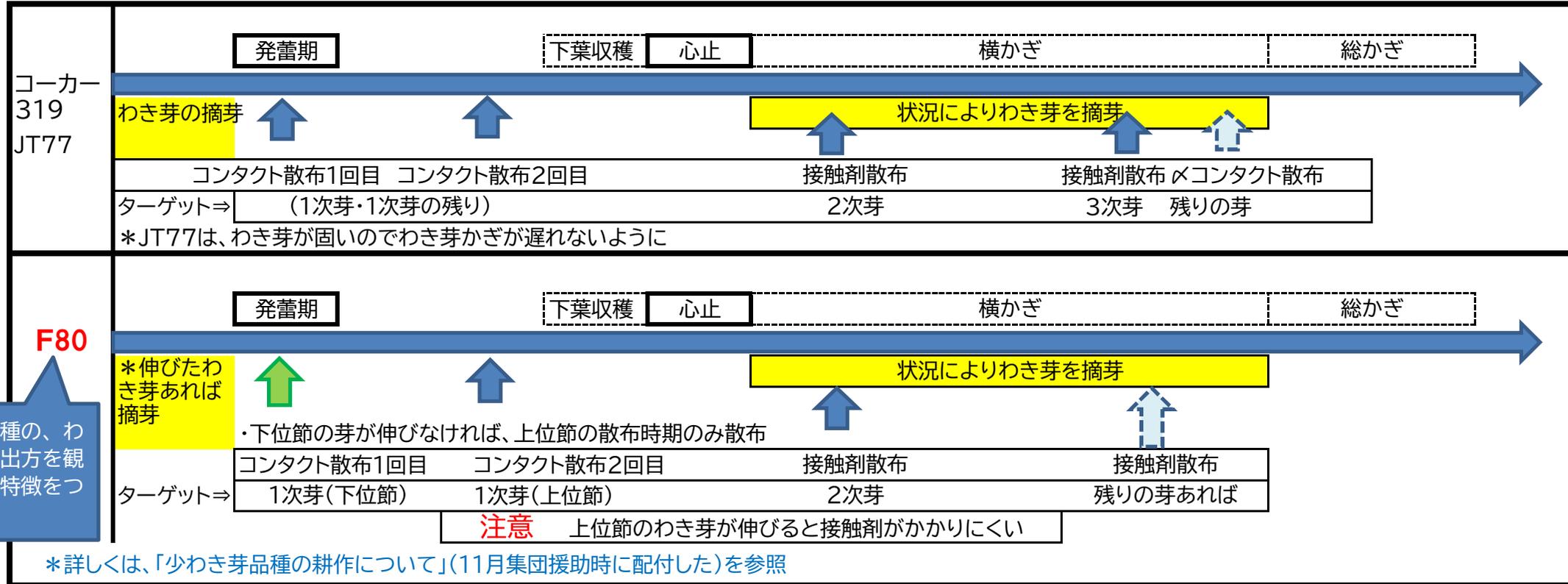
整理・整頓・清掃・清潔・習慣

3定…

定品・定位・定量

◆葉たばこの順調な成熟と充実にかかわる重要な作業です。わき芽除去は適期を逃さず、効果的に実施しましょう！

1. 品種ごとのわき芽管理作業イメージ



2. 接触剤の効果的使用：わき芽の発生状況を注意深く観察：丁寧な散布と先手先手がコツ

- 散布タイミング：わき芽の大きさが米粒大～3cm程度
- 心止前のコンタクト使用
 - ・草丈が40～50cm(一升瓶の高さ)の頃からコンタクトを散布する。
 - ・1回目のコンタクト散布は薄め(40～50倍)で散布量が少量でも効果がある。
 - ・散布の際は薬液が芯部にかからないように注意：右図参照)
- ※薬液が地際部へ流れ落ちるような多量な散布は、根や茎を傷め、倒伏や立枯病発生の原因となるので要注意！
- 心止め後の接触剤使用：心止めすると二次芽が旺盛に急速に発生伸長する。わき芽の伸長を見極め適期を逃さず散布する。
 - ・わき芽発生後の日数が経過するほど伸長速度が速まる。したがって心止後の早い時期に散布することが大切。
 - ・3次芽は上位1～2節が急速に伸長するのでタイミングを逃さないよう注意する。
- 接触剤の使用手法：「たばこ用農薬の使用基準」により、使用方法、遵守事項等を確認する。

芯部に極端に近づけて散布すると毛じを伝って薬液が逆流し、薬害が発生する。



| 使用時期 | 使用薬剤 | 使用回数 |
|------|-----------------|-------------------|
| 心止前 | コンタクトのみ使用可 | 2回以内 |
| 心止後 | コンタクト単用 | 4回以内 |
| | コンタクト・イエローリボン併用 | イエロー2回以内+×コンタクト1回 |
| 新 | コンタクト・ホワイトリボン併用 | ホワイト2回以内+×コンタクト1回 |

ホワイトリボンの希釈倍率は、30倍～40倍が良い(50倍では効果がやや劣る)

技術情報:4 2023年作 病害【糸状菌】対策について

令和5年4月
宮崎県たばこ耕作組合

◆ 疫病・赤星病・灰色かび病等の糸状菌病害は、例年大きな減収要因となっています。
「耕種的防除」と「適期適切な薬剤防除」の確実な実施で発生を防止し、収量確保に努めましょう！

1. 耕種的防除について

病害防除はまず第一に病害が発生しにくい環境づくり！

排水溝の点検、補修を
確実に！！
(雨天時の見回り)

残渣(わき芽、除去葉)
のほ地外への持ち出し
を確実に！！

ほ地周辺の雑草除去
を徹底！！
(病気、害虫のすみか
をなくす)

疫病など病害発生した
ら雨天時の収穫は極力
さける

作業機の洗浄
(病害の拡散
を防ぐ)



【排水不良ほ地】

2. 薬剤防除について

糸状菌病害は発生前の予防が効果的！病徴を見逃さず、早めの防除が大切！

◆ 茎葉散布剤は葉の表裏に充分かかるように丁寧に散布する (AP-1で薬剤防除する際は、垂直散布が効果的)

例年5月中旬には糸状菌病害の発生が見受けられます。

≪薬剤防除例≫

※同一病害に対する農薬の使用回数は2回以内であるため、下記農薬を効果的に組み合わせる。

※農薬の使用にあたっては耐性菌の発生を防ぐために「RACコード」を考慮しながら効果的に組み合わせる。(RACコード:農薬使用基準「名称」の< >内に記載)

| 対象病害 | 農薬名称剤型 | 適用病害 | 使用時期 | 処理方法 | ポイント |
|--------------|---------------|-------------------|------------------|----------------|---|
| 疫病 | ユニフォーム粒剤 | 疫病 | 大土寄期 (4月下旬まで) | 株元散布 | ・1株当たり、3~4gを株元に散布する |
| | オラクル顆粒水和剤 | 疫病 | 収穫10日前まで | 株元灌注 土壌表面散布 | ・横掻2回終了直後に灌注(1株に2000倍液を200mlずつ確実に灌注) ・横掻1~2回終了直後に2000倍液を10a当たり200ℓ~400ℓ畦間土壌表面散布(葉に飛散しないようノズルに飛散防止用のカバーを装着する) |
| | カッパーシン水和剤 | 疫病 | 収穫10日前まで | 茎葉散布 | |
| | ブリザード水和剤 | うどんこ病・疫病 | 収穫10日前まで | 茎葉散布 | ・薬害が出やすいので散布には充分注意する(夕方散布) |
| | アグリマイシン100水和剤 | 空洞病・野火病・疫病 角斑病 | 収穫3日前まで | 茎葉散布 | ・100mm程度の降雨が2~3回あった時タイミングを見て散布 ・豪雨や台風接近が予想される時(2~3日前)に散布 |
| 新規 | ザンプロDMフロアブル | 疫病 | 収穫10日前まで | 茎葉散布 | |
| 赤星病 灰色かび病 | アミスター20フロアブル | 赤星病・菌核病 | 収穫10日前まで | 茎葉散布 | ・横掻3~4回終了後、葉の表裏にたっぷり散布 |
| | ポリオキシシンAL水和剤 | 赤星病・灰色かび病 | 収穫5日前まで | 茎葉散布 | |
| | ポリオキシシンAL水溶剤 | 赤星病・灰色かび病・うどんこ病 | 収穫5日前まで | 茎葉散布 | ・中葉系に発生したら早めに散布(初発を見逃さない) |
| | バルコート水和剤 | 赤星病・灰色かび病・うどんこ病 | 収穫10日前まで | 茎葉散布 | ・収穫までの日数を考慮して薬剤を選択する |
| | エコショット水和剤 | 灰色かび病 | 収穫3日前まで | 茎葉散布 | |

◆「薬剤防除」にあたっては、防除効果の低減や、農薬使用基準逸脱につながる恐れがあるので「農薬使用基準」を必ず確認し、遵守してください！

【参考:農薬の処理方法について】

- ・株元散布(ユニフォーム粒剤):茎葉に飛散ないように株元に散布する。
- ・株元灌注(オラクル顆粒水和剤):茎葉に飛散ないように株元に灌注する。(畦内に注入する)
- ・土壌表面散布(オラクル顆粒水和剤):茎葉に飛散ないように土壌表面に散布する。(畦間処理)

農薬使用にかかわる詳細については「よくわかる!たばこ用農薬ガイド」を参照してください。

◆移植後35日程度は根部発達期、この時期に十分な根群をつくるのが「充実した標準作柄」形成に最も大切な時期です！

当面の作業上の留意点

1. 腰折れ病等の病害株や生育不良株がないかを確認する。

★生育不良株への対策

・植穴に加燐硝安液(100倍液)を1株当たり200ml程度かん注する。

加燐硝安1kgを水100ℓに溶かした液:10a当たり400ℓ程度
・畦立て時の土壤水分が多かったほ地や、施肥後移植までの期間が短かったほ地等
については注意深く観察し、生育不良株を確認したら適切な対応をしてください。

2. 排水状況の点検確認の実施

★降雨後のほ地の見回りを実施し、排水溝の設置、補修を徹底する。

・ほ地内への流入を防ぎ、ほ地外への排水を図るためにほ地周囲、枕地に排水溝を設置する。
(二段排水溝)



3. 根作りを意識した土寄せの実施

⇒ 不定根の発達促進・本葉系の充実を図るため

★土寄せ後は必ず確認して手直しする。

・AP-1装着のローラー型、タイヤ型土寄せの場合は特に注意し、確認する。



株元までしっかりと土を寄せる。

4. 初期生育時の干ばつによる生育遅れの防止

★気象情報で、干ばつが予測される場合は、早めに株元にかん水を実施する。

・かん水により、肥料の吸収を促し生育遅れを防止する。(液肥の追肥はダメ！)

F80(少わき芽品種) 情報

- ・3月~4月に冷え込む日があると、上位葉に黄化症状が出ます。
- ・病気ではありません。気温の上昇とともに、葉色が元に戻ります。

5. 本畑初期での損害対応について(冷静な対応を！)

★霜害:発生したら、被害程度を確認し、あわてず、生育の回復を待つ。

「葉たばこ耕作の手引きP56参照」

★風害:発生したら、落葉を除去し、生育の回復を待つ。

◆損害が発生したら速やかに耕作組合に連絡をしてください。

6. タバコ黄斑えそ病(PVY)対策について(たばこ耕作日誌P22参照)

★飛来予察が重要

★モモアカアブラムシの飛来温度・・気温の上昇とともに飛来増加

・午前9時の温度が12℃以上で飛来を始め、20℃以上で最も多くなる。

★薬剤による防除対策:使用基準の確認(使用回数、使用間隔等)

・PVY防除はジャガイモ農家と地域での一斉防除が効果的

※薬剤による防除対策については、耕作日誌P22を参照のこと

7. ドリフト(農薬飛散)対策について(たばこ耕作日誌P6~7参照)

★例年4月中旬~下旬にかけて強風があり、この時期にドリフト(農薬飛散)事故が多く発生している。

・被害者・加害者にならないよう充分注意をしてください。

★他作物と隣接するほ地(危険ほ地)は特に注意し、ドリフト対策を実施する。

【ドリフト対策】

・ドリフト防止注意喚起「のぼり旗」の設置(必要な方は耕作組合へ)

・隣接する農家との話し合い、協調を図る。

・障壁物(ネット等)の設置をする。

・強風時の農薬散布を避け、風向に注意する。

◆万が一事故が発生した場合は速やかに耕作組合へ連絡してください。

8. 異物(マルチ片)混入防止について(たばこ耕作日誌P9参照)

【マルチ片対策】

・ほ地内のマルチ片回収徹底

・回収活動強化週間の設定

・マルチ片回収袋の設置

1. 適期・適切な移植 : 順調な活着で早作早進

◎根張りの良いガッチリした苗(健苗)の適期・適切な移植に努め、活着促進を図る。

1) 移植に適した苗 : 葉数9~10枚苗(双葉から米粒大の心葉まで)

【健苗とは】

- ・発根力が旺盛で活着、初期生育が良好な苗
- ・低温、干ばつなどに抵抗力がある苗
- ・病気にかかっていない苗

※外観的に葉は濃緑色で良く展開し、葉肉は厚くガッチリとし、根部は細根が多く抱土量も多い。

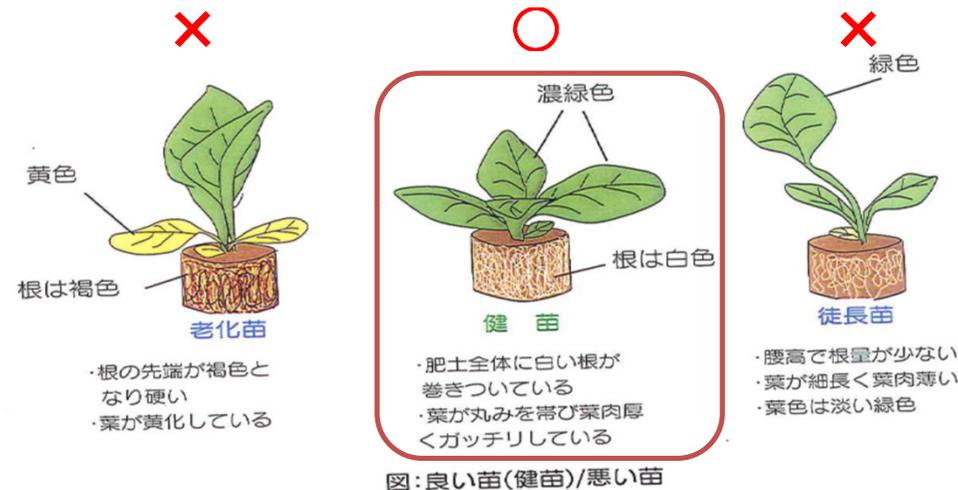


図: 良い苗(健苗)/悪い苗

★早蕾や霜害を防ぎ、作柄を揃えるためにも「適正な移植」が大事な作業となる。

2) 移植の際の注意点

- ①植穴は、直径10cm~13cm、深さ13cm~15cm程度
 - ・極端な浅植、深植は植付位置と施肥位置がズレて活着不良の原因となる。
- ②植付苗の抱土を露出させない
 - ・抱土の乾燥や根が畦土に伸長しにくい状態が活着遅れの原因。
- ③移植時に植穴が埋まらないようにする。
 - ・初期生育が遅れ、霜害や腰折れ病等の病害が発生しやすくなる。
- ④天気の状態を見極めて移植作業を行う。
 - ・北西風の強い、寒い日は移植作業をしない。
 - ・移植の翌朝、降霜が予想される場合は午後3時迄には終了する。
(翌朝の最低気温が2℃以下と予想される日は霜害を受ける可能性が高い)

※植付後の確認・手直しを必ず行い、植付穴が乾き気味の場合は、必ず、かん水を実施する。(初期生育促進)

2. 移植後のほ地管理について : 根張りの良い作柄づくり

◎移植から35日程度は葉たばこの根群発達期で、根張りの良い作柄づくりのために大切な時期です。ほ地管理を徹底し、順調な根群形成を図りましょう！

1) 排水対策の徹底 : 排水不良は根群の発達阻害

●排水溝の設置・点検 : 二段排水溝の設置

(ほ地の水分過剰の場合)

- ・根の生育および機能低下
- ・枯れ上がり、病害発生
- ・充実不足
- などを引き起こす



◀排水対策の徹底を!▶

2) 干ばつ時のかん水実施

●干ばつ傾向が予測される場合は、早めにかん水を実施し、初期生育の促進を図る。
かん水により肥料の吸収を促し、生育遅れを防止する。(液肥の追肥はダメ!)

3) ほ地の見回り点検

①ドリフト(農薬飛散)危険ほ地の確認

・他作物が隣接する場合はドリフト対策を実施する。
(周辺農家との話し合い、障壁物の設置、のぼり旗の設置等)

②ジャガイモほ地隣接確認 : 黄斑えそ病対策

・タバコほ地の周辺にジャガイモほ地がないかの確認とその対策の実施
・掘り残しイモの有無や小イモの処分場所が近くにならないかの確認とその対策の実施

③マルチ片の回収徹底

【参考:「べんとう肥」について】

・ネリ畦気味のほ地や施肥作業の遅れたほ地(施肥後2週間を経過していないほ地)等に移植する際は、活着促進を図るため「べんとう肥」を検討してください。

(べんとう肥の方法)

・移植前日または移植直前に苗床にたっぷりと灌水した後苗床1坪当たり加燐硝安100gを、水10リットルに溶かした液(100倍液)をジョーロで均一に散布する。

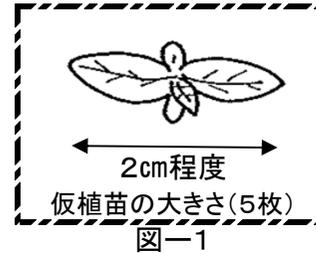
「早作早進」と「根づくり」を意識した作業で充実した作柄を形成し、収量確保に努めましょう!

健苗とは : 葉は濃緑色で葉肉が厚くしっかりしていて、根群が発達して白い細根が肥土全体を取り巻いた苗

◆苗床管理のポイント: 根作りを意識した苗床管理を！

1、仮植時の注意点

- ①仮植苗は根張りの良い5枚苗を選んで仮植する。(図-1参照)
- ②仮植穴を大きくあけ、根が充分覆土されるように丁寧に仮植する。
- ③仮植しながらビニポットの苗の大きさを揃える。
- ④なるべく地積の大きいビニポットを使用する。
(ビニポットの大きさは、地積の大きいものほど根量の多い苗が生産される。)



2、苗床の温度管理の注意点

- ※子床期間中に寒害、高温障害を受けることの無いようにハウス内温度管理には充分注意をする。
- ★8℃以下の低温、30℃以上の高温で生育は停止する。
- ★5℃以下になると寒害、35℃以上の高温で障害を受ける恐れがあり、40℃以上では高温障害を受ける。

【子床管理の目安】

| 仮植後の経過日数 | 前期 | | | | | | | | | | | 後期 | | | | | | | | | | | (移植) | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----------------------------------|----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|----|------|----|--|--|--|------------|--|--|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 24 | 25 | | | | | | |
| 作業 | 遮光する | | | | | | | | | | | | | | | | 順化处理(硬化) | | | | | | | | | | | 「べんとう肥」は適宜 | | |
| 生育 | 仮植3~5日で活着 | | | | | 葉数8枚程度 | | | | | | | | | | | 葉数10枚苗 | | | | | | | | | | | | | |
| 灌水 | 活着まで充分灌水 1日1~2回4~5ℓ/3.3㎡ 表面が常に湿っている状態 | | | | | 活着以降少量灌水: 苗が萎凋しない程度を目安に灌水を制限する(1日1回3~4ℓ/3.3㎡) 活着後は日中表面が乾いた部分に軽く灌水を行い、夕方表面がやや乾く程度にする。夜間湿っぽいと徒長の原因になる。順化处理時は日中は葉がわずかにしおれるが、朝夕には回復する程度に灌水を制限する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 直射日光を避ける・保温に努める | | | | | 日照確保・温度管理 | | | | | 徐々に自然条件に近い状態にする。・日照確保(8時間程度) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 温度 | 【昼間】床温25℃程度 | | | | | 床温23℃程度、上部は 20℃~25℃(2, 3℃上下しても問題なし) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 30℃を超えるようであれば、換気を行う。 | | | | | 25℃を超えるようであれば換気を行う。 | | | | | 日中の温度管理: ハウス内20~25℃を保つ(早蕾・過着葉防止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 【夜間】床温15℃ | | | | | 14℃ | | | | | | | | | | | 13℃ | | | | | | | | | | | | | |
| | 【花芽の形成】 | | | | | ★昼・夜とも温度が高くと、花芽の分化が遅れて全葉数が最も多くなる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苗の葉数が9枚の頃の温度、日長条件によって花芽の形成や開花の時期が左右されやすく、それが原因で、早期発蕾株や過着葉株につながることもあるので温度、日長管理には充分注意する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■F80(少わき芽性品種) 苗の特徴

- ・コーカー319に比べて、低温感受性がある。
- ・気温が下がると、葉の黄化症状が出やすくなるが、病気ではなく、コーカー319との生育差もほとんどない。

3、苗床で発生する病害防除(腰折病等)

・高温多湿条件で腰折病等の病気が発生しやすくなる。ハウス管理や灌水は適切に行う。

★ 薬剤散布について

○トップジンMの1,000倍かベンレート1,000倍液を、表土全体に薬剤が浸透するくらいの薬量を、被害が発生している部分を中心に、ジョーロで灌水をするような要領でたっぷりと散布する。
(ジョーロ等は除草剤の散布をしていないことを確認する。)

★ 注意 : ○農薬使用基準を確認する

○晴天の日中散布は、薬害の恐れがあるので、午後3時以降に散布する。
○他の薬剤との混合散布は、薬害の恐れがあるので絶対しないこと。

健苗を育成するには

- ・温度管理を適切に行うこと
- ・生長の程度に応じて灌水を制限すること
- ・できるだけ日光をあてること

注意深い観察と、こまめな苗床管理が大切